

2006年5月22日
株式会社 日立産機システム

トップランナーモールド変圧器「Super トップランナーモールド」シリーズを新発売



株式会社日立産機システム(取締役社長: 椎木清彦 / 以下日立産機)は鉄心にケイ素鋼鉄を採用してトップランナー方式(*1)の基準値を達成したモールド変圧器「HIMOLD T」シリーズをモデルチェンジし、新型モールド変圧器「Super トップランナーモールド」シリーズを5月より発売いたします。

「Super トップランナーモールド」シリーズは現行標準モールド変圧器(*2)に対し、コンパクト化(床面積比5～10%低減)、軽量化(質量比5～10%低減)を実現しました。

高圧受配電用変圧器は2003年4月に「エネルギー使用の合理化に関する法律」(省エネ法)により、トップランナー方式の「特定機器」に指定されました。

変圧器製造事業者は目標年度(油入変圧器: 2006年度、モールド変圧器: 2007年度)までに定められた基準値(2000年度比約30.3%の効率改善)を達成した製品を販売することを義務付けられております。また、この目標基準値を達成した変圧器(以下トップランナー変圧器)はグリーン購入法の特定調達品目に指定されております。

2005年4月には新JIS規格(モールド変圧器: JIS C 4306-2005)が制定され、トップランナー変圧器の普及拡大が進んでおり、さらに、目標年度以降にはトップランナー変圧器が標準変圧器と位置付けられ、省エネ特性以外の筐体寸法や質量、デリバリー等のユーザーニーズも顕著化してくると思われます。現在、市場の約70%を占める油入変圧器が目標年度(2006年度)に達し、市場における変圧器の省エネ化が急速に加速する事となり、目標年度が2007年度年のモールド変圧器に対しても省エネ需要も拡大傾向にあります。

日立産機は1997年に国内メーカーとして初めて民需向けアモルファス変圧器を発売して以来、他社の追随を許さない省エネルギー効果を実現した変圧器を市場に投入し、省エネ変圧器市場をリードしてまいりました。トッランナー変圧器のデファクト化、市場化拡大により、日立産機ではトッランナー方式の基準値を200%達成する機種を持つ省エネルギー型変圧器であるアモルファス変圧器をフラッグシップモデルとし、ケイ素鋼板変圧器のラインナップ強化を図り、お客様の変圧器の使用実態や使用環境に応じた、受配電設備における省エネソリューションビジネスを展開しております。

このたび発売いたします「Superトッランナーモールド」シリーズは、省エネ市場ニーズに対応するため、目標年度から約1年前倒ししての発売とし、低粘度注型エポキシ樹脂の採用、高占積率巻線技術の開発、コイル形状の改良によりモールド樹脂の使用量削減およびコイルの小型化を図り、鉄心の最適設計化により、省エネルギー効果と同時にコンパクト化を実現いたしました。モールド変圧器に要求の多い、キューピクル式高圧受電設備への収納化でトッランナー変圧器の導入をより容易にいたしました。

日立産機はトッランナー変圧器の標準化対応を進め、受配電設備における省エネソリューションビジネスをより強固なものいたします。油入変圧器と合わせて国内トップシェアを維持し、2006年度国内シェア40%を目指します。

なお、本製品は5月24日からインテックス大阪で開催される「2006 電設工業展」(主催:社団法人日本電設工業協会)に出展いたします。

(*1) トッランナー方式:省エネルギー法で指定するもの(特定機器)の省エネルギー基準を、その機器で現在商品化されている

うちで最も優れている製品の性能を基に設定し、目標年度を定めてエネルギー消費効率を高めていくように普及促進する方式。

(*2) 現行標準品:JIS C4306-1999 規格準拠品

<仕様>

電圧	6kV 以下
容量	単相 10kVA ~ 500kVA
	三相 20kVA ~ 2000kVA

本件の照会先

株式会社 日立産機システム 事業統括本部受配電・環境システム事業部 [担当:林]
〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3番地A K S ビル
TEL (03)4345 - 6564(直通)

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
